

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年4月6日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 第4回シンポジウム実施代表部局
東南アジア研究所

職 名 所 長

氏 名 水 野 広 祐

事業区分	平成20年度・大学全体計画事業助成			
事業名	京都大学附置研究所・センターシンポジウムの開催 「京都からの提言－21世紀の日本を考える－(第4回)」			
開催期間	平成21年3月14日			
開催場所	名古屋市 名鉄ホール			
成果の概要	別添のとおり 無 <input type="checkbox"/> 有(広報用チラシ、聴講者へ配布の研究所・センター紹介冊子)			
会計報告	事業に要した経費総額	11,035,351 円		
	うち当財団からの助成額	4,000,000 円		
	その他の資金の出所	京都大学総長裁量経費、読売新聞大阪本社寄付金、研究所・センター分担金		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	会場使用料(名鉄ホール)	987,525		
	広告費(読売新聞広告)	5,450,000	3,413,059	
	印刷費(ポスター、チラシ等)	1,847,769	576,387	
	通信費(広報物等発送費)	60,060	10,554	
	シンポジウム進行業務委託費	1,963,059		
	人件費(事務補助、当日運営要員謝金)	567,598		
	旅 費(打合せ、会場調査等)	64,840		
消耗品(PPC用紙等)	0			
雑 費	94,500			
合 計	11,035,351	4,000,000		

シンポジウム成果の概要

報告者：(実施代表部局) 京都大学東南アジア研究所長 水野広祐

京都大学附置研究所・センターシンポジウム 「京都からの提言 21世紀の日本を考えるー(第4回)」 学問のつながりのユニークさ:それがつくる明るい未来

貴財団のご支援を得て京都大学の22の附置研究所・センターが主催のシンポジウム「京都からの提言 21世紀の日本を考える(第4回)」を3月14日(土)名古屋・名鉄ホールにおいて開催いたしました。

第1回の東京・品川、第2回の大阪、第3回の横浜に続く第4回目の今回は、「学問のつながりのユニークさ:それがつくる明るい未来」をサブテーマに、松本 紘総長、藤井信孝副学長の挨拶の後、「セックス - 語りたい? 語れない?」(田中雅一・人文科学研究所教授)、「植物で自動車を創る! - 生物の力を借りる材料開発 -」(矢野浩之・生存圏研究所教授)、「野生動物に学ぶ - 雪虫からイルカまで -」(幸島司郎・野生動物研究センター教授)、「人類が生き延びてこられたのはなぜか - グローバル・ヒストリーの新しい問い -」(杉原 薫・東南アジア研究所教授)、「素粒子論研究の想いで」(益川敏英・京都大学名誉教授 元基礎物理学研究所長)の5つの講演を行い、その後、代谷誠治・原子炉実験所長をコーディネーターに、パネリストとして、田中、矢野、幸島、杉原の各講演者に、ゲストとして、山脇幸一・名古屋大学大学院理学研究科教授と宇川 聡・読売新聞大阪本社編集委員を加え、パネルディスカッションを行いました。

各講演では、様々な学際融合による最新の研究成果などをわかりやすく紹介し、パネルディスカッションでは、パネリストからサブテーマ(「学問のつながりのユニークさ:それがつくる明るい未来」)に沿った意見を述べ、その後、各パネリストが自身の研究経験や実績を紹介しながら、実社会の諸問題に対する大学での研究の重要性やおもしろさについて、活発な討議を行い、約600名の聴講者の皆様には、メモをとられる方等、非常に熱心に聴講いただきました。

聴講者の皆様からいただいたアンケート結果(シンポジウムに対する意見)では、「京大の人材の豊かさや社会貢献への積極的な姿勢が素晴らしい」、「この企画を続けてほしい」、「一般人にもとてもわかり易かった」、「学問の幅の広さ、つながりを感じた」等々の好評をいただき、多くの方々に大学の研究が実社会での諸問題にどのように貢献しているかを知っていただく機会を提供できたと考えます。

以上、第4回のシンポジウムの成果をご報告申し上げますとともに、本シンポジウムは、今後も全国主要都市で年1回開催して参りますので、引き続き本シンポジウムにご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。